

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1194800064		
法人名	医療法人 彩清会 清水病院		
事業所名	グループホーム梅こよみ		
所在地	埼玉県秩父郡皆野町大字国神854-6		
自己評価作成日	平成 27年 9月 16日	評価結果市町村受理日	平成27年 11月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/11/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvosoCd=1194800064-00&PrefCd=11&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階		
訪問調査日	平成 27年 10月 16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人内での月1回の勉強会も三年目に入り、専門の外部講師を招くなど工夫をこらしながら知識の習得に取り組んでいる。介護度も徐々に上がる中で、できる事を奪わないケアを徹底し特に排泄の自立に向けての支援は職員全員で統一ケアを行い成果をあげている。また、新たな取り組みとしてシナプソロジー(脳活性化プログラム)を導入し認知機能の向上を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人母体が医療法人である。常に利用者本位(パーソンセンタードケア)の支援に努め、特に新たな取り組みとしてシナプソロジー(脳活性化プログラム)を取り入れている。職員の誘導で体を使い、笑顔で大変楽しそうに参加している利用者の姿は、介護施設とは思えないような素晴らしい光景である。玄関は施錠しておらず、利用者は自由に出入りして、庭での畑仕事を行ったり、散歩をしている。その姿を、職員は目配りにて見守っていた。自然に恵まれた環境の中で、利用者は制限を受けるようなこともなく、明るく活気のある生活を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関入り口に理念を掲示しその理念に基づいた「心得6訓」は朝礼時に確認し実践に繋げている。	管理者は月1回、本部で理念に基づいた勉強会を行い、現場に持ち帰り伝達することで共有して実践につなげている。玄関ホールに「心得6訓」が掲示され朝礼の時に再確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設内での行事に地域のボランティアの方の協力を頂いたり、「秋の味覚を楽しむ会」と「お餅つき会」には近隣の方を招待し、利用者と共に楽しんで貰っている。	高齢者や中学生のボランティアを受け入れし、初任者研修の実習先としても協力している。事業所行事のバーベキューや芋煮会、餅つき会に地域住民を招待し、楽しい交流会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症デイを開始し、自宅での困りごとなど相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内での新たな取り組みや、行事、研修内容、現状報告など二ヶ月に一回開催している。 困りごとなどは参加者全員で話し合い、更なるサービス向上に活かしている。	地域包括・民生委員・病院・区長・家族の参加の下で、定期的に年6回開催している。会議では、事業所の運営状況や課題などについて委員から意見を頂きサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも毎回参加を頂き事業所の実情を伝えている。また、市の協力で認知症サポーターの研修も法人で行なった。	制度や利用者に関する内容で必要なことについては、市へ相談に出向いたり、市から各種の案内を頂いている。地域包括からは、運営推進会議への参加協力やボランティアの紹介等があり良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者一人一人について拘束にあたいしないかカンファレンスで話し合っている。また、身体拘束の勉強会を行いどのような行為が拘束なのか職員全員が理解している。	運営者及び職員は、玄関の施錠を含め身体拘束の弊害を理解している。日中は玄関の施錠をせず、利用者は庭の畑の手入れや散歩などで自由に入出入りしている。職員は利用者の安全に配慮した見守りをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	メンタルヘルスの勉強会に参加し職員がストレスをためない職場作りを目指すことで防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市で行なう成年後見制度の説明会に参加し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に納得が得られるまで十分な説明を行なっている。また、保険改定等、面会時に書面で説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に目安箱を設置し、記入方法もアンケート式にし記入しやすいよう工夫をしている。家族からの意見、要望は職員全員で検討しケアプランに反映させている。	日常生活の中で利用者の意見や要望を把握するように努め、出された意見や要望は叶えられるよう支援している。また、家族には面会時や通院時、行事開催時に意見や要望を聞く機会を設け、運営に反映させている。	家族からの意見や要望は、面会の多い家族とは聞く機会はあるが、来所の難しい家族とは機会が少ない。無記名でのアンケート等を実施し、より良い事業所となるよう期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の法人内研修の後に食事会を行い他の部所との交流を図るとともに直接、代表者と意見交換が出来る機会がある。施設内でも毎月会議を行ない職員からの意見や提案が寄せられ運営に反映している。	毎月開催する法人内研修後の食事会にて、代表者や他部署との交流をしたり、カンファレンスにて意見交換が行われている。トイレ清掃に関して提案があり、きれいに保つために、清掃回数と時間帯を変えることにした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内で本人希望の移動制度を設けることで自己の知識を高め、やりがいのある働きやすい職場環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修には自由に参加でき伝達講習することで職場全体のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秩父郡市地域密着型連絡会と連携をとり年6回の勉強会に参加している。また、グループホーム協会にも入会し、他のグループホームを見学し工夫や取り組みなど聞かせて頂いたり意見交換の場をもっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時に本人、家族とゆっくり話す時間を設け傾聴し不安を軽減しながら信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には施設内を見学して頂き、困り事や不安、要望を伺い納得が得られるまで説明することで信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」まず求められる支援を見極め必要なサービスの内容を確認している。また、必要に応じて外部のサービスを提案したり柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なんでも相談をしながら行い、出来る事はお願いし助け合うことで一方的にならないよう気をつけている。また、野菜作り、草むしりなど一緒に行い共に支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の生活を毎月の便りで報告することで状況を把握して頂き、施設の行事に参加し家族との楽しめる時間を共有できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と共に馴染みの美容院に通ったりドライブや兄弟同士の食事会に参加したり関係が途切れないよう支援している。	家族と共に馴染みの美容院へ通ったり、自宅へ行ったりと家族との関係が継続されるように支援をしている。併設の認知症デイサービスの利用者との交流も図られ、馴染みの人との関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の会話や関り方を把握し孤立の無いよう注意をはらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も面会に伺いご本人の相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちを尊重し自由に選択が出来るような質問の仕方を心がけている。また、統一したケアができるようカンファレンスで確認し共有している。	職員は常に笑顔での傾聴を実践している。利用者の気持ちを尊重し、自由に選択できるような質問の仕方を心がけ、利用者の表情や行動、家族からの情報を参考に意向をくみ取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ナラティブケア(自分の物語を語って頂くケア)を行なう事で一人一人の生活歴、暮らし方を全員で把握でき良好なコミュニケーションへ繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録を通じて生活のリズムや一日の過ごし方の把握に努めている。また、バイタルチェック、食事摂取、排泄チェックなどで身体的状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者と家族の要望や意見を取り入れて三ヶ月毎に担当者会議を行い現状に即した介護計画を作成している。	利用者と家族の要望や意見を取り入れ、医師や職員が意見交換し介護計画を作成している。利用者の現状に即した最善の計画になるよう、必要に応じて随時見直しを行っている。3ヶ月ごとの見直しを基本としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はフロー全体と個別記録とに分けて記入し職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。また、家族にも支援記録を毎月お知らせしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族から話しやすい、また相談しやすい関係を保つことで、より柔軟なサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(廃品回収、納涼祭など)に参加することで本人にとっての役割が持つ豊かな生活に繋がるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回、母体の病院で受診を行なっている。歯科は訪問歯科が可能です。家族対応の通院の場合は記録をお渡しし、状況に応じて同行を行なっている。	かかりつけ医への通院は、家族対応をお願いしているが、系列の病院及び精神科医への受診は、職員が対応している。歯科医必要時には来所して頂いている。週に2回看護師の協力も得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週二回看護師が出勤しており報告や相談をしながら体調管理を行なっている。また、急変時も24時間連絡可能な環境が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体の病院の相談員や看護師とは連絡や相談を密にとり情報交換を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所としての指針を説明している。食事摂取が困難になったり医療行為が常時必要となった場合は医師、家族、職員で話し合い利用者にとって最善な方法を支援している。	入居時に、家族に事業所としての指針を説明している。食事摂取が困難になったり、医療行為が発生した場合には、家族、医師、職員とで意見交換し、利用者にとって最善の方法での支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救命処置の研修に参加したり、AEDを設置し事故発生時に備えた勉強会も行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は日中想定と夜間想定と年二回行なっている。夜間想定時は地域の消防団や近隣の協力を頂いて訓練を行なっている。	年2回、消防署立ち合いで夜間想定も含めた避難訓練を行っている。地域消防団の協力を得て近隣の方々にも声かけをしている。AEDを設置し研修会と共にAEDの使用訓練も行い、近隣の方々にも周知されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナーの勉強会を行い言葉使いや対応など利用者の尊厳を損なわない対応をしている。	職員は利用者一人ひとりの生活歴を尊重し、常に笑顔での接遇に努めている。特に排泄、入浴介助時の声かけにはプライバシーに配慮している。定期的に勉強会を開催し、接遇マナーの大切さは理解して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は常に利用者の思いや希望を聞き自己決定が出来るよう一人一人にゆっくりと時間をかけ働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が主体となって、その人らしい暮らしができるよう柔軟な対応をしている。また、常に利用者の希望や自己決定を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服を選んで頂きコーディネートなど一緒に相談しながらお洒落を楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の能力に応じテーブル拭きや食器洗いなど職員と一緒にこなしている。また外食支援を行い食べたいメニューを自分で注文している。	フロアごとに、シルバー人材センターの方に作って頂き提供している。利用者との年齢も近く、話し相手にもなっている。庭でのバーベキューでは、近隣住民から野菜を頂き、一緒に参加して頂いた。外食の日もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事形態に合わせた食事を提供している。また、食事は毎回記録し、必要に応じて水分量もチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは声掛けを行い記録に残している。口腔状態や本人の能力に応じ歯ブラシ、舌ブラシ等で口腔の衛生を日常的に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツで入所された方も定時にトイレに座ることで尿意も戻り排泄の自立へと繋がるよう支援しています。	利用者の人格を尊重しながら、様子からのサインを察知したり、時間を見計らい声かけを行いトイレへ誘導している。身体機能に応じて、手を差しのべたり、見守るなどの支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼る前に野菜や繊維質の多い食材をメニューに取り入れている。水分補給は個人の嗜好に合わせて提供しています。また、運動不足にならないように施設内の長い廊下を歩いたり散歩にお誘いしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調や希望時間を合わせゆっくりと入浴できるよう支援しています。毎日入浴を希望させている方、入眠前を希望させられている方にも会話をしながら見守りをしている。	利用者の希望に応じて、時間帯や曜日を決めずに入浴して頂く支援をしている。毎日入浴する利用者や、嫌がる利用者にも個々に対応し、週に2日は最低でも入浴して頂いている。ADL入浴装置も設置してある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を充実させ積極的に参加して貰う事で生活のリズムを整え気持ちよく眠れるよう支援している。また眠れない夜は温かい飲み物をすすめ、ゆっくりと話を聞く時間を持っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の内服情報は処方箋を閲覧する事で目的、副作用、用法や容量について理解している。また内服薬の変更があった際には状態や症状の変化など観察、確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の楽しみを見つけ意欲を引き出すような支援をしています。ドライブや買い物に出かけ気分転換になるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調と天候に配慮しながら日常的に散歩を楽しんでいます。遠方への外出は家族に協力を頂き外出できるよう支援している。	五感を常に感じて頂けるよう、日中は玄関の施錠をしていない。自由に出入りできる環境の中で、庭の畑の手入れをしたり、天候を考慮して散歩に出掛けている。紅葉を見ながらのリンゴ狩りは、利用者の楽しみな行事となっている。家族と遠出をする利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力に応じて希望があれば本人で金銭管理を行なっている。通販ショッピングを注文したりホームに来るヤクルトを購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはいつでも電話がかけられるよう支援している。個人で携帯電話をお持ちの方もおり充電器の管理をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂に季節の花を飾ったり鈴虫を玄関に置き視覚、聴覚で季節感を感じて頂いている。廊下には沢山の写真や作品を飾り利用者同士でも会話がはずむよう工夫をしている。	玄関や廊下は、広く明るい開放感のある作りで、自然環境が目に入る快適な空間となっている。壁には利用者の作品や行事ごとの写真、お花が飾ってあり、季節を感じられるよう工夫している。また、不快な刺激となるようなものはないように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外の場所でも広い廊下にソファや椅子を置き気の合った方同士で思い思いに過ごせる様な居場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた寝具や筆筒、冷蔵庫、椅子など持ち込んでいるほか、家族の写真や思い出の品を飾り安心して居心地良く過ごせるよう支援している。	家族と相談し、馴染みの家具や用品、趣味の道具等を持ち込んで頂き、利用者の意向を尊重した配置を行っている。居心地良く穏やかな生活ができるよう、家族・職員が利用者本位の生活環境を整える支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレに手摺りを設置し「歩く」「立てる」など、出来る事を安全に継続して自立生活が送れるよう支援している。		